

駒澤大学経済学部公開講座2024

協同で働く若者たちの挑戦

労働者協同組合型経営による
民主的運営と平等化プロセスの取り組み

2024年11月27日（水）18：30～20：00

駒澤大学駒沢キャンパス3号館2階3-211

いま、労働者がそれぞれの力を持ち寄って協同し、主体的に働く「労働者協同組合」という働き方が注目されています。日本では労働者協同組合法が施行されて2年が経過し、100法人が設立されています。

ただ、労働者協同組合がめざす方向性は魅力的であるものの、崇高な理念を掲げ、単に法人格を取得しただけでは、実際のところ、その実践はうまくいくわけではありません。

今回、ゲストとしてお越しいただく田井さんは、アーバンズ合同会社の経営を通じて、共に働く仲間との対話を重ね、日々悩みながら、民主的運営と平等化のプロセスを実践してきました。その実践を一緒に紐解くことで、協同で働くこと、対話すること、そして、日本の労働者協同組合の発展についても考えます。

<ゲスト講師> 田井 勝

アーバンズ合同会社代表社員
鳥取大学地域学部非常勤講師

1986年千葉県育ち。駒澤大学経済学部卒業。
地元のフリーターである幼馴染たちと生活のために手を取り合って起業。普通の生き方が多様化しつつある現在の日本社会を念頭に、様々な価値観や生き方がある事を仲間と共に模索している。



<聴き手> 松本 典子

駒澤大学経済学部教授
現代応用経済学科ラボラトリ所長

『労働者協同組合とは何か』（中央経済社）を2025年2月に刊行予定



※事前申し込みは不要です。直接教室にお越しください。

主催：駒澤大学経済学部

共催：駒澤大学経済学部現代応用経済学科ラボラトリ